

時空の漂泊

(二〇〇五年十月七日 第二十号)

高橋 滋

広島便り8——建具の製作

梅雨つゆというのは六月頃、日本の周囲の高気圧が拮抗し、その前線が停滞するため降る長雨ながあめのことを言うのだが、今年の梅雨つゆは「降れば土砂降り」という変わったタイプだった。

前線の動きが活発で、一気に北上したり、南下したりした。前線が移動する真下の地域は記録的な集中豪雨となり、それ以外の地域は梅雨つゆの時期だというのに雨がまったく降らず快晴の日々が続き、水源が枯渇こかつするという気象だった。

広島は、六月はほとんど雨が降らなかった。六月だけでなく小屋の製作をはじめた三月から雨で土日の外仕事ができなかったのはたったの三日しかなかった。今年前半は、作業をするのには非常に天候に恵まれた。

雨に悩まされたのは七月に入ってからだった。七月二日に床の二回目の塗装を終えたが、その日は朝から強い雨だった。しかし、仕上げておかないと次へ進めないなので、強い雨の中を無理して作業場に行った。

そして予定通りに床の二回目の塗装を終えて安堵あんどし、帰りには近くにあり四方を山に囲まれた小瀬川畔の閑寂かんじやくな「岩倉温泉」(廿日市市津田)に立ち寄り、一日の作業の汗を流し、

くつろいで、これから先の工程に思いを巡めぐらせた。



単純弱放射能冷鉱泉
神経痛、関節痛、痛風、高血圧症、慢性消化器病、慢性婦人病など

日帰り入浴
午前 9 時 30 分～午後 9 時まで
大人 430 円 小学生 200 円
3才以上 100 円

すでに四月に購入した材料はほとんど使い切り、次の外壁工事の材料に何を使うか思案していたからだ。

外壁には木材を使うことは決めていた。境界線に近づけて建てる場合は、壁を準防火構造にする必要がある、部分的に鋼板を使うことも検討したが、境界線から三メートル離し、外壁に木材を使うことにした。

しかし、「外壁用」と謳う木材は建
材屋には置かれておらず、カタログを
見て取り寄せるしかなかった。しかも、
取り寄せても建設地まで運んでもら
う段取りが必要になる。ともかく厄介
である。さらに、その板を縦に使うか、
横に使うかも決めかねていた。

ところが、温泉に入っていたら、全
体の姿が見えてきて、これで行こうと
思いが定まった。心身ともにさっぱり
して後半戦を迎えることになった。

窓工事

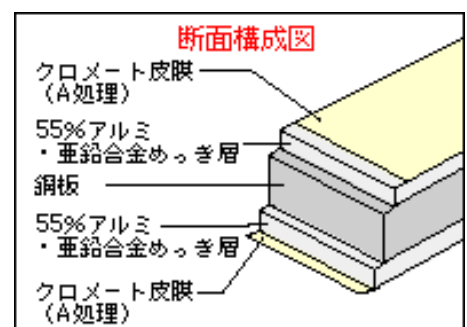
窓は自作することにした。アメリカ
には木造窓の専門業者が数多くあり、
様々なものが流通している。日本にも
輸入され、大手サッシュメーカーの製

品ラインナップに加わっているが、が
つちりと大きく重く、手作りの小屋に
はどうもしつくりしない。

ログハウス用の特殊な窓を作つて
国内メーカーもあるが、趣味の世界の
商品のように触手が伸びない。それで
自分で作ろうと決めたのである。

ところで、外壁工事は、通常、構造
材の上にアスファルトフェルトなど
の防水紙を貼り、サッシや換気扇など
を取り付け、本体との境目を防水テー
プで防水し、その後、サイディングと
いう窯業系（セラミック）ないし金属
製の外壁を取り付けるという手順で
行われる。

余談だが、建材屋で、もうブリキ（錫



メッキ鋼板）
はありません、
と笑われた。
今使われてい
るのは「ガル
バリウム鋼
板」というも

のである。アルミニウム・亜鉛合金を
メッキした鋼板で、何と二十年保証を
謳っている。ブリキの数倍の耐久性が
あるという。すごい自信である。

最初は、まず入口や窓の外枠を作り、
最初に外壁作業に入ることを予定し
ていた。七月末まで外観を完成する。
それから、ゆつくりと建具を考えて製
作するという段取りにしていた。建具
にはかなりの時間が掛かると想定し
たからだ。

しかし、本体枠組の建設途中で、窓は外枠と可動部分（障子）^{しょうじ}が一体であり、外枠だけを先行して製作するのは難しいと気がついた。スライド式ならレール部分の加工がいるし、開き方式ならば、ヒンジの受け部分の削りこみなどをしておかなければならない。

そんなことが分かったもので、ロフト^{はしご}に上がる梯子を作った後、改めて窓について検討することにした。

窓の開き方やロックの考え方を定め、市内で金具を探しては、現場で確認する。何度も市内と現場を往復し、ようやく金具を決め、窓の基本を決め、それを基に外枠をどうするかを決めることができた。

窓は、バスの窓のような押上げ型にし、窓外枠の下枠^{したかまち}を五度傾け、排水させる構造にした。

入口工事

入口も大きな仕事である。小屋の計画段階で、もつとも時間を使ったのは、入口構造の検討だったと思う。

開口部はできるだけ大きくし、フロア面が外へ向かって面^{つらいち}で広がる形式を構想した。埃^{ほこり}の出る木工作業を外（ウッドデッキ）でやれるように、またウッドデッキでの食事などのアウトドア活動が室内にスムーズにつながるようという考えからである。

以前、タキイの「園芸新知識」で紹介されていたL字型の小屋の平面形状も頭にあつた。開口部を通して、内と外が一体につながるという考えである。

「フロア面にレールのような障害がない構造」をあれこれと考えて、結局「外付け・上吊り^{うえつ}タイプの引き戸」に行きついた。

外壁面にアルミニウムのレールを取り付け、引き戸を吊り下げる。「雨^{あま}仕舞^{じま}い」^三は不完全になるが、引き戸はスペースの活用という点で優れており、水はいずれにしても完全には防げないと覚悟して、この方式に決めた。

^一 Loft 屋根裏部屋。

^二 框（かまち）…窓、障子、扉などの周囲の枠をいう。

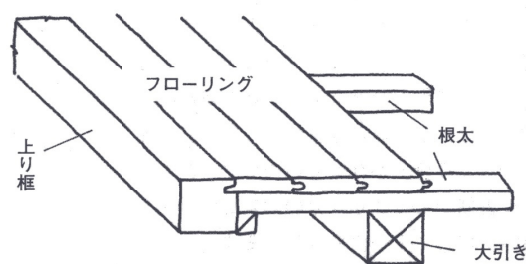
^三 建物の内へ雨水が浸入するのを防ぐこと。また、その施工方法。

「雨仕舞い」は入口につながるウッドデッキを工夫することによって障害を少なくすることにした。

幸い、インターネット上の検索で、「外付け・上吊りタイプの引き戸」用の戸車とレールを見付けることができた。アトムリビングテックという会社の製品で、親切に相談に応じてくれ、部品図も手に入り、それを基に入口の設計を完了することができた。

やや細かい話だが、ウッドデッキから室内に入る床面を面一に平らに（掃き出し式に）するのは思いのほか面倒だった。入口の下枠「上がり框」^四と床面を一体で工作する必要がある。

^四 玄関や勝手口などの上がり口に取り付ける横木、あるいは化粧材のこと。



そのため、まず「上がり框」の部分には「SPF」^五では頼りないので、ここでは「レッドシダー」(Red Cedar)^六とし、床張り前に本体枠組に組み込まなければならなかった。

外枠の加工・取り付け、入口の框の残り部分の加工を行い、必要な塗装も行い、その上で防水紙を貼って、見た目にも変化が出てきたのは、八月も中旬であった。

^五 亜寒帯針葉樹林に生育するスプルース (Spruce: エゾ松)、バイン (Pine: 松)、ファー (Fir: マツノ木) の総称。いずれも成長が早く安価で、主にツーバイフォー住宅の構造材として使用されている。
^六 米杉、カナダ杉とも言われる。伸縮性が少なく、割れや反りが生じにくい耐久性の優れた木材。



窓枠はシリコン・コーキング^七で本体と密着させ、その上にアスファルト防水紙を貼り、さらに枠との隙間を防水テープで防御した。

しかし、こうした防水対策はまったくの我流であり、シリコン・コーキングと木材の相性は大丈夫なのか、それでどの程度まで防水できるのか、あるいは防水テープにどの程度の耐久性があるのかなど正直なところ自信がない。

^七 コーキング (caulking) : 窓枠の周囲、部材の接目などの小さいすき間にパテ状の充填材を詰めること。また、その充填材。

建具の製作

そして、いよいよ建具の製作に入った。大物は「外付け・上吊りタイプ^{うえつ}の引き戸」である。作業を始めたなら、デザイン要素にも気を配らなくてはならず、本当に手間取った。



例えば、引き戸の窓(明り取り)の位置(高さ)にしても、図面は書いたのだが、実際に材料(戸枠の厚さと幅)、構造、ガラスのはめ方(納め方)を検討し、モデルを作り壁に立て掛け、その具合を眺めて最終的に固めたものは、当初の図面とはかなり違うものになってしまった。バランスというものは、どんなものでもなかなか難しいということを改めて思い知らされた。

ところで、改めて言う必要がないのだが、建具は家具の範疇^{はんちゆう}に入る。そして家具の範疇になると、要求される工作精度はまったく違ってくる。

本体の枠組みでは〇・五ミリの誤差が許容範囲である。それでも窓の外枠を製作した時には、小屋本体との隙間^{すきま}

が〇・五ミリだと、水が沁み込んできそうな感じを払拭できなかった。何とかして「ゼロスキ」(密着状態)にしたいという方向に気持ちが傾いた。

ところが、家具の場合、突合せ^{つきあわ}のスキはなく、引き出しなどの最後の調整はカンナ一削り(二〇〜三〇ミクロン)である。寸法やデザインに加えて、建具の製作には、こうした精度への引っ掛かりがあつて時間を費やした。

出窓工事

さらに急遽、「出窓」に変更するといふ寄り道も加わった。「構造はできるだけ簡単に」が当初の基本方針だった。片流れにしたのも「屋根の仕事が楽」といふ狙い^{ねらい}があつたからだ。

ところが、途中で「出窓」に変更し
たくなつた。床を張り終えて、一番大
きな窓に手を置いて外を眺めた時、突
然、「ここに出窓が欲しい」と思った。
南向きで、冬は一等地になる場所だ。
ここに温室のような窓があれば、冬も
楽しめるはずだと思つた。

しかし、「出窓」は「天窓」に負け
ず劣らず家を傷める。十年ほど住んだ
住宅公団の中層住宅でも、「出窓」の
痛みが問題になつた。露結ろけつが半端はんぱでは
なく、接合部が腐くさつた。

そんな問題があることは承知して
いたのが、それでも「出窓」がある家
が、私の潜在的な願望であり、夢だつ
たのだと思う。そして「問題が起きて
も、それも経験の一つ。後で出窓を付

けるより、最初から付ける方が楽だろ
う」と割り切り、「出窓」にすること
に踏み切つてしまった。

形が見えてくると、どうしても手直
しをしたくなるのが少なくない。私
が長年、関わつてきた自動車の世界も
そうだった。

「出窓」を設けると決め、久しぶり
にCADを使って部材設計を行つた。



設計し、必
要なパー
ツに分解
したら、何
と、その部
品点数は
小屋本体
の壁の一



面に
匹敵
する
こと
がわ
かつ
た。
小屋
本

体は、直線の加工で長さも同じ物が多
いが、「出窓」は側面と屋根の両方に
角度がついていて、加工も組み立ても
本体の壁の一面よりも苦勞したよう
に思う。

(ちなみに、椅子の足や土俵の柱が垂
直ではなくて外側に開く場合を「四方
転び」といって、断面の墨付け、加工
は難しい仕事に属する。)

家は大きな家具

建築家の本を読んでいて、家は大きな家具であるという表現を何度か目にした。

ちなみに、すでに何度か触れている吉村順三氏^八が戦後日本で個人住宅の設計を始めた頃は、相応^{ふさわ}しい家具が見当たらず、結局、家具も自分自身で設計し、メーカーや職人に製作させたことがあったらしい。

家具への取り組みが深くなると、家と家具を切り離せなくなり、先に述べたような気持ちになるようだ。

^八一九〇八〜一九九七年。建築家。東京生まれ。東京美術学校卒。東京芸大教授。合理を基調にした日本趣味の素朴な作風で、木造住宅にも佳作が多い。奈良国立博物館の設計で芸術院賞受賞。他に軽井沢の山荘など。

建具^{たてぐ}を作っていると、時間を忘れてしまうことが度々だった。部材が多く加工も複雑で、集中力を失うとミスをする。勢い、時間を忘れるほど作業に集中してしまっているのである。

作業場の気温は広島市内より二〜三度低い上に、林間からの風が爽^{さわ}やかである。それでも三十二度を越えるとさすがに汗が噴き出してくる。

八月も雨はほとんど降らず、晴天続きの中、汗を噴き出しながら時間を忘れ、休む日もなく作業を行った。何か大きな家具を際限ない時間を掛けて作っているような気がしてきた。

そして気が付いたら夏が過ぎていた。セミの合唱がいつの間にか虫の声に変わっていた。

幸い、それまでは台風の洗礼を受けなかったが、九月に入ると本当に危なくなる。昨年、広島は五回も台風に襲われた。九月初めに西日本を直撃した台風十八号では、広島市内で風速六十メートルが記録された。

電気の引き込み工事の都合で八月末に外壁の一部に手をつけたが、台風が気になって、それよりも窓ガラスのはめ込みを先行させることにした。



九月四日に初めてガラスが入った。

その二日後、台風

十四号が山陰沖を通過した。風は弱かったが、短時間に三五〇ミリもの雨が降った。

仕事を早めに終え、迂回路うかいろを通って様子を見に出かけた。幸運にも建設途中の小屋は無事だった。雨が吹き込んだ程度で、道具類もぐも濡れていなかった。

私が小屋を建てている廿日市はつかいちし佐伯地域さいきでは、川が氾濫はんらんし、六戸の家屋が流された。道路は何カ所も通行止めになった。

天窓おとの仮の覆いが飛ばされなくて済んだのは幸いだ。済んだのは幸いだ。済んだのは幸いだ。

翌日、水浸しになった小屋を想像し、

中国新聞 平成17年10月6日（木曜日）



台風14号の被害。廿日市、佐伯、小瀬川沿いの様子。台風の被害。

台風14号きょう1ヵ月

道路3カ所のお通行止め 廿日市 佐伯

安佐北 浸水家屋改修続く

県西部に豪雨被害をもたらした台風14号から六日で一月、主要な被害の復旧が相次いだ。廿日市佐伯地域は三カ所、通行止めが残り、太田川流域にある広島市安佐北の浸水地区では家屋の改修が今なお続いている。土砂崩れが発生した宮島町は市街地の土砂の除去作業がほぼ終わり、観光も勢いを取り戻してきた。

●廿日市佐伯地域 約のお客さんに連絡できないし、気持ちをなやませる。片側交互通行が続く。片側交互通行が再開し、二年閉鎖を告げられた。小瀬川沿いに並ぶ四店、店主は「廃業も考えなく、今も休業中だ。かきあげのクラブ」は「土のう」講習を応答的を受ければ、復旧工事は進んでいる。講習者の岡本慶子さんは「心労で入院し、二人飯原美子さん、白糸川沿いに土砂崩れが生じた宮島町の復旧などは、一週間もかかると見られる。

●安佐北区可部町 十八世帯が被害にあつた。安佐北の可部町今井田

どうも復旧が進み、巨岩や流木が残っていた大壁の崩壊防止の工事も今週中には終わる。大壁の土砂が流れ込んだ大壁門前の復旧は一日から飲食店の営業を再開、宿泊も十一月再開のめどが付き、父とも連絡する。渡辺雄吉さんは「思わなかった」と喜ぶ。町では五月の来訪数は十八万九千八百八十八人、台風14号で打撃を受けた昨年より18.9%増えている。

が、壁が壊れない家が自立つ。床や壁の張り替え工事が始まった家もあるが、住民たちは改修費用に資金を悩ませている。床は三十坪まで水に濡らした。玉砕香口二二二の人は「万が一、壁が崩れ、車と計約五百万円の被害があったが、保険が利くのは百万円程度を考えると不安。この地区には平常生活の人も多く、大変です」と嘆く。